

新・日本史入門 近世から近代へ (第2回) 2010年10月16日  
享保と寛政の改革

1, 元禄文化

①江戸前期の文化 【資料1】 【資料2】 【資料3】 【資料4】

桃山文化の影響→鎖国→独自の文化—元禄文化 (17C末～18C初)

上方町人が担い手—現実主義的傾向—美術や芸能 合理的な精神—儒学や古典

②儒学と学問

朱子学=大義名分—封建的な身分秩序

林羅山 (藤原惺窩の門人) ら一族→湯島の聖堂と付属の学問所

南学—野中兼山・山崎闇斎 (垂加神道)

陽明学=中江藤樹・熊沢蕃山—革新的な精神

古学派=孔子や孟子の教えにもどる—山鹿素行、伊藤仁斎・東涯、荻生徂徠

諸藩の学問=水戸学—水戸藩主徳川光圀—『大日本史』

加賀藩前田綱紀—『東寺百合文書』の保護

諸学問の発達 和算=関孝和 天文学・暦学=安井算哲 (渋川春海) —貞享暦

山鹿素行=『武家事紀』、新井白石=『読史余論』

古典の研究=僧契沖—『万葉集』、北村季吟—『源氏物語』・『枕草子』

③文学と美術

俳諧=西山宗因—「談林風」→松尾芭蕉—「蕉風俳諧」—「奥の細道」

浮世草子=井原西鶴—『好色一代男』・『日本永代蔵』・『世間胸算用』

人形浄瑠璃=近松門左衛門—『曾根崎心中』 (世話物) ・『国姓爺合戦』 (時代物)

歌舞伎=女歌歌舞伎・若衆歌舞伎→野郎歌舞伎—市川団十郎・坂田藤十郎

建築=桃山文化の影響—日光東照宮・狩野探幽 (永徳の孫)

数寄屋造り—桂離宮 (書院造り+茶屋)

絵画=本阿弥光悦、俵屋宗達、尾形光琳 (琳派) —書画と蒔絵

し 浮世絵=菱川師宣→木版画

陶芸=有田焼—酒井田柿右衛門 (赤絵)、野々村仁清、尾形乾山

染物=宮崎友禅—友禅染め

2, 享保の改革

8代将軍吉宗—将軍権力の復活と財政再建=享保の改革→家康の政治が理想

武芸の奨励と質素・儉約

足高の制—人材登用 大岡忠相・田中丘隅ら

上米の制—参勤交代の半減 【資料5】

農村の復興—質流れ禁止令 定免法

新田開発 (町人請負新田) 【資料6】

殖産興業—甘藷・朝鮮人参などの栽培—実学の奨励

相対済し令 【資料7】

公事方御定書 (1742) 下巻「御定書百箇条」 【資料8】

目安箱・小石川養生所・町火消

享保の飢饉（1732）－「うんか」の発生－稲作が大被害－江戸で初めての打ちこわし

### 3, 田沼時代

#### ①田沼の政治

10代将軍家治－田沼意次、側用人から老中へ－商人の財力を利用して財政再建

株仲間の公認拡大←運上金・冥加金

座の設定－幕府の専売品 銅・鉄・真鍮・朝鮮人参など

町人請負新田－印旛沼・手賀沼の干拓

俵物の輸出←金・銀の輸入

【テキスト p187】

蝦夷地の開発とロシアとの交易を意図←工藤平助『赤蝦夷風説考』－俵物の産地  
結果→商業活動の活発化、商人の地位の上昇

賄賂の横行、武士の気風の頹廃

【資料 9】

【資料 10】

諸藩＝商品作物の奨励－国産品の指定→専売制

藩札の発行

#### ②百姓一揆の激化と天明の飢饉

商品作物への課税や統制→百姓の年貢減免要求や課税軽減要求

幕府・藩は認めず→百姓一揆の激化、打ちこわしも－義民の登場

〔補1〕

1782年－浅間山の噴火→天明の飢饉へ 1787年＝大坂・江戸の打ちこわし

百姓一揆の頻発 越訴や一揆は原則禁止

初期－村役人の代表越訴

18世紀－惣百姓一揆

【資料 11】 【資料 12】

### 4, 寛政の改革

#### ①松平定信の政治

1787年、松平定信老中に－封建秩序の回復と財政基盤の安定

秩序の回復 物価引き下げ、米の買い占め禁止

棄捐令

【資料 13】

寛政異学の禁

聖堂学問所→官立の昌平坂学問所

【資料 14】

厳しい風俗・出版統制→山東京伝・蔦屋重三郎らの処罰

経済政策

献金の廃止、二朱銀の鑄造、江戸周辺の上酒の製造

都市政策

人足寄場 【テキスト p191】 〔補2〕

七分金積み立て制度 【テキスト p190】

農村政策

有能な代官の登用、旧里帰農令、社倉・義倉・困米

#### ②農村の荒廃と藩政改革

【資料 15】

耕地の荒廃→年貢収納の減少－藩財政の窮乏化

藩政の改革－赤子養育法・備荒貯蓄制度

国益政策－国産品の奨励と専売制

教育政策－藩校と郷校

【資料 16】

名君の登場－米沢藩・上杉治憲、秋田藩・佐竹義和、熊本藩・細川重賢

### 5, 外圧の激化と蝦夷地の防衛

【資料 17】

ヨーロッパ列強の日本接近－イギリスとロシア

ロシア－毛皮の確保のために北太平洋へ→18C、千島列島から蝦夷地へ

1792年、ラックスマン、根室で通商を求める←幕府は拒否

林子平—蝦夷地開発と海防を主張—『三国通覧図説』『海国兵談』 【資料 18】

対外政策—蝦夷地探検→最上徳内・近藤重蔵・間宮林蔵 蝦夷地の直轄化  
レザノフ、長崎へ（1804）←幕府拒否 ロシア船の蝦夷地出沒  
フェートン号事件（1808）→長崎侵入 欧米列強間の紛争  
ゴローニン事件（1811）ゴローニンの監禁←高田屋嘉兵衛の抑留

【資料1】江戸前期の学者とその業績

分類	作者	主要作品
儒学	藤原 惺 高山	「文章達徳録」・「千代もと草」・「四書五経倭訓」 「本朝通鑑」・「羅山先生文集」・「神道伝授」・ 「本朝神社考」・「寛永諸家系図伝」
	依屋 宗 達 本阿弥 光悦 狩野 探 幽 久隅 守 景 土佐 光 起 住吉 如 慶 酒井 具 慶 野々村 仁 清	「風神雷神図屏風」・「源氏物語図屏風」 「舟橋時絵扇箱」・「茶碗「不二山」・「雨雲」 「大徳寺方丈模絵」・「東照大権現縁起」 「夕顔糊納涼図屏風」 「北野天神縁起絵巻」 「堀河夜討絵巻」・「多武峰縁起」・「橋姫物語」 「洛中洛外図絵巻」・「元三大師縁起」 「色絵花鳥文深鉢」 「色絵吉野山図茶壺」
文学	松永 真 徳 浅井 了 意	「貞徳独吟」・「戴恩記」・「道遊愚抄」 「浮世物語」(⇒p. 257)

▲江戸初期の文化人とその作品

【資料2】

作者	分類	主要作品
井原西鶴	好色物	好色一代男 好色五人女
	武家物	武道伝来記 武家義理物語
	町人物	日本永代蔵 世間胸算用
松尾芭蕉	紀行文	奥の細道 野ざらし紀行
	俳諧集	あらの 曠野 猿蓑
近松 門左衛門	時代物	国性爺合戦
	世話物	曾根崎心中 冥途の飛脚 心中天網島

【資料3】 ▲元禄3文豪のおもな作品

【資料7】

相対済し令  
一、近年金銀出入段々多く成り、評定所寄合の節も此儀を専ら取扱ひ、公事訴訟ハ末に罷成  
評定の本旨を失ひ候。借金銀・買懸り等の儀ハ、人々相対の上の事ニ候得ば、自今ハ三奉行  
所ニて済口の取扱ひ致す間敷候。併し欲心を以て事を巧み候出入ハ、不届き 糺明いたし、  
御仕置申し付くべく候事。  
一、只今迄奉行所ニて取上げ、日切に申付け、段々濟寄り候金銀の出入も、向後罷出で間敷  
き由申し付くべく候事。  
(御触書寛保集成)

学 者	業 績 (著書)	学 者	業 績 (著書)
自然科学	吉田 光 由 『塵劫記』	自然科学	稲生 若 水 『庶物類纂』
	関 孝 和 『算徴算法』(和算)		『和蘭本草和解』
	西川 春 海 貞 享 曆・幕府天文方		『大和本草』
	淡川 春 見 『町人義』『百姓義』		『本草綱目啓蒙』
	新井 白 石 『西洋紀聞』『采覧異言』		『農業全書』
国文学	陰陽五行説の観念医学	国文学	北村 季 吟 『源氏物語湖月抄』
	古医方の提唱		『万葉集管見』
	南蛮医学→洋式医学		『梨木集』
	『蔵志』(人体解剖書)		『万葉代匠記』

【資料4】 新井白石の天下九変五変論

本朝天下ノ大勢九変シテ武家ノ代トナリ、武家ノ代マタ五変シテ当代ニオヨブ総論ノ事。神皇正統記①ニ光孝②ヨリ上ツ方ハ一向上古ナリ。……五十六代清和③幼主ニテ、外祖良房④摂政ス。是外戚⑤専權ノ始(一変)。基経⑥外舅ノ親ニヨリテ陽成⑦ヲ廢シ、光孝ヲ建シカバ、天下ノ權藤氏ニ歸ス。其後関白ヲ置キ、或ハ置ザル代⑧アリシカド、藤氏ノ權オノズカラ日々盛也(二変)。……武家ハ源頼朝幕府ヲ開テ⑨、父子三代天下兵馬ノ權ヲ司レリ⑩。凡三十三(一変)、平義時⑪承久ノ乱⑫後天下ノ權ヲトル。……後醍醐中興⑬ノ後源尊氏⑭反シテ天子蒙塵⑮、尊氏光明院⑯ヲ北朝ノ主トナシテ、ミズカラ幕府ヲ開キ子孫相繼デ十二代ニヲヨブ。……足利殿ノ末織田家⑰勃興シテ將軍⑱ヲ廢シ、天子⑲ヲ扶ミ天下ニ令セント謀リシカド、事未ダ成ラズシテ凡十年ガホド其臣光秀ニ弑セラル⑲ 『読史余論』⑲

困 ①北畠親房の著。この部分を空欄とした出題もねらわれやすい。同書の内容と性格も確認しよう。 ②光孝天皇 ③清和天皇 ④藤原良房。842年の承和の変、866年の応天門の変で伴・橘・紀氏ら他氏を排斥した。 ⑤母方の親戚 ⑥藤原基経 ⑦陽成天皇 ⑧醍醐天皇・村上天皇の代(延喜・天曆の治)。 ⑨1192年 ⑩武家の棟梁として征夷大將軍となった。 ⑪北条義時。北条氏は平氏を称した。 ⑫討幕の兵をあげた後鳥羽・土御門・順徳の3上皇は配流、仲恭天皇は退位となった。 ⑬後醍醐天皇は記録所を設けて建武の新政を行った。 ⑭足利尊氏。足利氏を源氏を称した。 ⑮天皇は都を追われて逃亡した。 ⑯光明天皇。 ⑰織田信長 ⑱足利義昭 ⑲正親町天皇 ⑳明智光秀が本能寺の変で織田信長を討った。 ㉑新井白石の著。

【資料6】

新田開発の高札  
一、諸国御料所又は私領と入組候場所にも、新田に成るべき場所これ有るに於ては、其所の御代官、地頭、井百姓申談じ、何も得心の上新田取立候仕形、委細絵図書付に申し、五畿内は京都町奉行所、西国、中国筋は大坂町奉行所、北国筋、關八州は江戸町奉行所願出ずべく候。願人或は百姓をだまし、或は金元のものえ巧を以て勤め、金銀等むさぼり取候儀を專一に存じ、偽りを以て申出づものあらば、吟味の上相とがむるにてこれ有るべき事。  
(御触書寛保集成)

【資料5】

上げ米の令  
御旗本に召し置かれ候御家人、御代々段々相増し候。御蔵入高も先規よりは多く候得共、御切米御扶持方、其外表立ち候御用筋の渡方に引合候ては、畢竟年々不足の事に候。……今年に至て御切米等も相渡し難く、御仕置筋の御用も御手支の事に候。それに付御代々御沙汰もこれなき事に候得共、万石以上の面々より八木差上げ候様に仰付らるべしと思召し、左候はねば、御家人の内数百人、御扶持を召放さるべきより外はこれ無く候故、御恥辱をも顧みられず仰せ出され候。高一万石につき八木百石積り差上げらるべく候。……これに依つて在江戸半年充て、免成され候間、緩々休息いたし候様にと仰せ出され候。  
(御触書寛保集成)

結核政治

田沼氏の盛なりしときは諸家の贈遺さまさまに心を尽したることどもなりき。中秋の月宴に島台輕台を始め劣らじと趣向したる中に、或家の進物は小なる青竹籃に活潑たる大鶴七八計に些少の野蔬をあしらひ、青柚一つ、家彫萩薄の柄の小刀にてその袖を貫きたり。家彫は後藤氏の影響所、世の各名、その価數十金に當る……又田沼氏中書にて臥したるとき候問の使价、此節は何を遊び給ふやと訊ふ。舊盆を枕辺に置いて見られ候と用人答しより、二三日の間諸家各色の石菖を大小となく持ちこみ、大なる坐敷二二計は、すき間も無く並べたて、取扱にもあぐみしといふ。その頃の風儀かくのごとくぞありける。(甲子夜話)

天明の大飢饉

天明の大飢饉——天明四・一七八四(一七八四)陸奥の兩國は、常は豊饒の国なりしが、此年はそれに引かへて取わけの不熟にて、南部、津輕に至りては、余所よりは甚しく……父子兄弟を見棄て我一にと他領に出さまよひ、なげき食を乞ふ。されど行く先々も同じ飢饉の折からなれば……日々に千人二千人流民共は餓死せし由、又出で行く事のかなはずして残り留る者共は、食ふべきものの限りは食ひたれど後には尽果て、先に死たる屍を切取ては食ひし由、或は小児の首を切、頭面の皮を剥去りて焼火の中に焙り焼、頭蓋のわれめに籠さし入、脳味噌を引出し、草木の根葉をませたきて食ひし人も有しと也。……又或人の語りしは、其ころ陸奥にて何がしとかいへる橋打通り侍りに、其下に餓たる人の死骸あり、是を切割、股の肉、籃に盛行人有し故、何になすぞと問侍れば、是を草木の葉に交て犬の肉と欺て商ふなりと答へし由、……おそろしかりし年なりし。(後見草)

公事方御定書(御定書百ヶ条)

(二六) 賄賂差出候もの御仕置之事

一、公事諸願其外請負事等ニ付而、賄賂差出候もの并、取持いたし候もの、輕追放

但賄賂請候もの其品相返すこと申出づるにおゐてハ賄賂差出候もの并、取持いたし候もの、供

ニ村役人ニ候ハ、役儀取上、平百姓ニ候ハ、過料申し付くべき事

(五二) 盗人御仕置之事

一、人を殺盗いたし候もの

一、追刺いたし候もの

一、手元二有る之品を與へ風盜取候類、金子ハ拾兩より以上雑物ハ代金ニ積拾兩位より以上ハ

(七二) 人殺并、疵附等御仕置之事

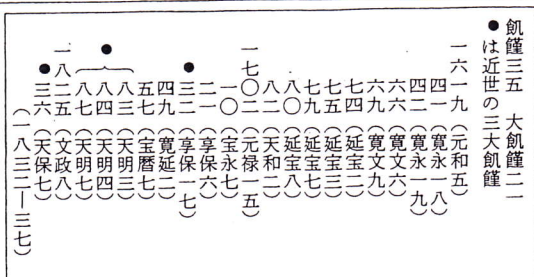
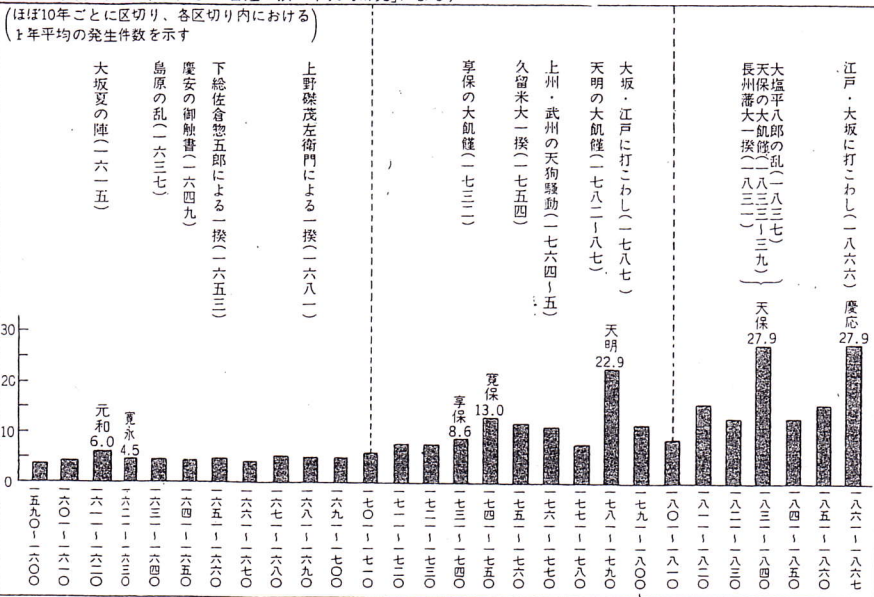
一、主殺

一、主人に為手負候もの

(徳川禁令考後聚)

一揆の年代	一揆の型	一揆の主体	一揆の要求	一揆の列
17C後半~	代表越訴型	村役人層	年貢減免	①下総佐倉惣五郎(1653) ②上野徳茂左衛門(1681)
18C初期~	惣百姓一揆型	村役人層と中・下層農民	年貢減免・助郷軽減 藩専売制廃止	③久留米の大一揆(1754) ④上州・武州の天狗騒動(1764~5)
幕末	世直し一揆型	中・下層農民(村役人・地主層の反動化)	世直し=社会革新 土地所有の平等 村役人の公選	⑤長州藩大一揆(1831)

百姓一揆グラフ(青木虹二「百姓一揆の年次的研究」による)



寛政元年九月 大目付え  
 一、御旗本御家人蔵宿共より借入金利足の儀は、蔵宿借金仕法御改正仰せ出され候事  
 渡し候間、借り方の儀は是迄の通り蔵宿と相對に致すべき事  
 一、旧来の借金は勿論、六ヶ年以前辰年まで二借請候金子は、古借新借の差別無く、棄捐の積り相心得べき事  
 (御触書天保集成)

寛政異学の禁  
 学派維持ノ儀に付申達 林大学頭え  
 朱学の儀は、慶長以来御代々御信用の御事にて、已に其方家、代々右学風維持の事仰せ付置れ候儀に候得者、油断無く正学相励み、門人共取立て申すべき筈に候。然、処近來世上種々新規の説をなし、異学流行、風俗を破り候類これ有り、全く正学衰微のゆえに候哉、甚だ相濟まざる事にて候。其方門人共の内にも、右体、學術純正ならざるもの、折節はこれ有る様にも相聞え、如何に候。此度聖堂御取締嚴重に仰せ付られ、柴野彦助・岡田清助儀も、右御用仰せ付られ候事に候得者、能々此旨申し談じ、急度門人共異学を相禁じ、猶又、自門に限らず他門に申合せ、正学講窮致し、人才取立て候様相心掛申すべく候事。  
 寛政二年五月廿四日 (徳川禁令考)

天明の大飢饉  
 出羽、陸奥の両国は、常は豊饒の国なりしが、此年はそれに引かへて取わけの不熟にて、南部、津軽に至りては、余所よりは甚しく……父子兄弟を見棄て我一にと他領に出さまよひ、なげき食を乞ふ。されど行く先々も同じ飢饉の折からなれば……日々に千人二千人流民共は餓死せし由、又出で行く事のかなはずして残り留る者共は、食ふべきものの限りは食ひたれど後には尽果て、先に死たる屍を切取ては食ひし由、或は小児の首を切、頭面の皮を剥去りて焼火の中に焙り焼、頭蓋のわれめに筈さし入、脳味噌を引出し、草木の根葉をませたきて食ひし人も有しと也。……又或人の語りしは、其ころ陸奥にて何がしかいへる橋打通り侍りしに、其下に餓たる人の死骸あり、是を切割、股の肉、籃に盛行人有し故、何になすぞと問侍れば、是を草木の葉に交て犬の肉と欺て商ふなりと答へし由、……おそろしかりし年なりし。  
 (後見草)

著名な藩校

水戸	鹿島	熊本	萩	岡山	名古屋	会津	米沢	仙台	藩校名
弘道館	造士館	時習館	明倫館	閑谷学校	花鳥教場	明倫堂	日新館	興讓館	養賢堂

※印は農村の子弟も対象とした。

著名な私塾

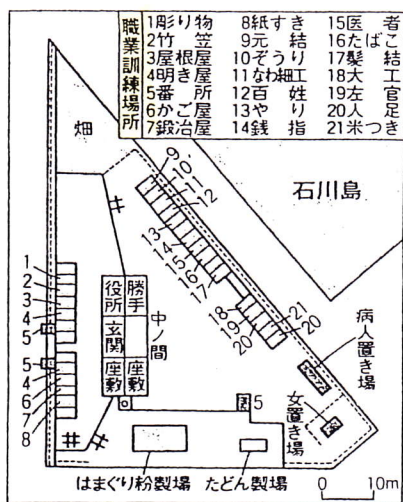
場所	人物	塾名	区分
京都	伊藤仁斎	古義堂	儒学
近江	藤樹	藤樹書院	"
大坂	中宅井石	懐徳堂	"
豊後	広瀬淡玄	咸宜園	" 蘭学
江戸	大槻方東	咸宜園	"
大坂	緒方東	先施塾	"
江戸	伊本	鳴鶴塾	" 国学
長崎	シ本	鈴気塾	"
松阪	平吉	吹屋塾	"
江戸	萩	松下塾	一般

【補1】

氏名	発生年	内容
松本長五郎	1652(承応元)年	若狭(福井県)小浜藩の重税への強訴
木惣五郎	1654(承応3)年	下総(千葉県)佐倉藩の苛政に直訴
佐倉茂左衛門	1681(天和元)年	上野(群馬県)沼田藩の非法を直訴
森田嘉助	1686(貞享3)年	信濃(長野県)松本藩の誅求への強訴

▲代表的な義民たち

【補2】



▲江戸石川島の人足寄場のようす

海防論

当世の俗習にて、異国船の入津ハ長崎に限たる事にて、別の浦江船を寄ル事は決して成らざる事ト思へり。実に太平に鼓腹する人ト云べし。……海国なるゆへ何国の浦へも心に任せて船を寄せらるゝことなれば、島国なりとて曾て油断は致されざる事也。……当時長崎に嚴重に石火矢の備有て、却て安房・相模の海港に其備なし、此事甚不審。細かに思へば、江戸の日本橋より唐阿蘭陀迄境なしの水路也。然ルを此に備へずして、長崎にのみ備ルは何ぞや。

(海国兵談)

将軍	列強の接近	日本の対策
10代 家治	1778(安永7) ロシア船蝦夷地に来航、松前藩に通商を求む	1779(安永8) 松前藩拒否 1783(天明3) 工藤兵助「赤蝦夷風説考」 1785(天明5) 林子平「三国通覧図説」 1786(天明6) 最上徳内ら千島探検、ウルップ島に至る
1786		
	1792(寛政4).9 ロシア使節ラックスマン根室に来航 (カザリンIIの命で、大黒屋幸太夫らを引き渡し、通商を求む)	1791(寛政3) 林子平「海国兵談」 異国船渡来の際の処置を指令 1792(寛政4).5 林子平処罰 " .12 松平定信、安房・上総・下総・伊豆・相模の沿岸巡視 1793(寛政5) 幕府拒否、長崎回航要求
	1796(寛政8) イギリス船海図製作のため蝦夷地(室蘭)に来航	
	1797(寛政9) ロシア人エトロフ島に上陸	1798(寛政10) 近藤重蔵ら、エトロフ島に「大日本恵土呂府」の標柱を建つ 1799(寛政11) 幕府、東蝦夷地を直轄 1800(寛政12) 伊能忠敬、蝦夷地測量 1802(享和2) 幕府、蝦夷奉行を置く(後箱館奉行と改称)
11代 家	1804(文化元) ロシア使節レザノフ長崎に来航、通商を求む (アレクサンダーIの国書)	1805(文化2) 幕府拒否 1806(文化3) 薪水給与令(文化の撫恤(ぶじゅつ)令)
	1808(文化5) イギリス軍艦フェートン号長崎に侵入(フェートン号事件) →長崎奉行松平康英、引責自殺	1807(文化4) 幕府、西蝦夷地を直轄、箱館奉行を廃し、松前奉行を置く 1808(文化5) 間宮林蔵、樺太探検 1809(文化6) 幕府樺太を北蝦夷と改称 1811(文化8) 間宮林蔵、黒龍江地方を探検 ロシア艦長ゴローニンらをクナシリで捕り
斉	1812(文化9) 高田屋嘉兵衛、クナシリ沖でロシア艦に捕えらる	
	1813(文化10) ロシア艦高田屋嘉兵衛を送還、ゴローニンと交換	
	1818(文政元) イギリス人ゴルドン浦賀に来航、通商を求む	幕府拒否
	1824(文政7) イギリス捕鯨船員常陸沿岸に上陸して薪水を求む イギリス捕鯨船員薩摩の宝島に上陸し、野牛を奪う	1825(文政8) 異国船打払令(無二念打払令)
1837	1837(天保8) アメリカ船モリソン号浦賀で砲撃さる(モリソン号事件)	1838(天保9) 高野長英「戊戌夢物語」、渡辺華山「慎機論」を著わし、幕府の外交政策を非難 ↓ 蛮社の獄(1839) 天保の緩和令(薪水給与令復活)
12代 家	<アヘン戦争(1840~1842)>	1842(天保13)
	1844(天保15) オランダ国王ウィルヘルムII将軍に親書、開国勧告	1845(弘化2) 幕府謝絶
	1846(弘化3) アメリカ使節ビッドル浦賀に来航、通商を求む (フランスに二月革命(1848) カリフォルニア金鉱発見(1848))	幕府拒否
慶	1852(嘉永5) オランダ商館長幕府にアメリカ艦隊の来航を予告	1850(嘉永3) 佐賀藩、反射炉を築造する
	1853(嘉永6) アメリカ使節ペリー浦賀に来航、通商を求む	

# 幕府を立て直せ！ 三大改革スタート

幕府再建を目ざして行われた三大改革だったが、寛政、天保の改革では成果があがらず、幕府の権威は衰退していった。

1716~1843年

昭和 大正 明治 江戸 安土桃山 室町 鎌倉 平安 奈良 古墳・飛鳥 弥生 縄文

## 江戸時代中期~後期の政治史

年	人物	改革	内容	結果
18世紀初め			年貢の徴収高が停滞し、旗本・御家人などの武士は生活が困窮。農村では、経済の発展が階層分化を促し、農地を手放す農民が相次いだ。	農村を土台に、武士が支配身分として頂点に立つ構造の幕藩体制は、農民と武士の困窮により <b>存続の危機</b> を迎える。
1716~45年	徳川吉宗	享保の改革	家康の時代を理想とし、将軍が先頭に立って改革を断行。財政再建のため、上げ米の実施や新田開発、税率の引き上げを行った。	財政が安定し、 <b>幕府の権威が回復</b> 。
1767~86年	田沼意次		吉宗の改革路線を受け継ぎ、重商主義を積極化。株仲間を奨励するなど、商人を保護したほか、殖産興業の推進に努めた。	財政の改革に成功するが、 <b>賄賂の横行</b> 、一揆の激化などにより <b>失脚</b> 。 <small>子の田沼意知が暗殺されると、急速に権力を失っていった。</small>
1787~93年	松平定信	寛政の改革	重商主義を否定して復古的な重農主義に転換。農村の復興を重点とし、江戸における下層民対策をも講じ、打ちこわしの防止を図った。	時代の流れに逆行する政策により、改革の <b>効果はあがらず</b> 。 <small>天保の飢饉が起り、一揆や打ちこわしが頻発した。</small>
1793~1841年	徳川家斉		失脚した定信に代わって実権を握るが熱意に欠け、華美な生活を送って幕政を混乱させた。	大塩平八郎の乱(1837年)などにより、 <b>幕府の権威が失墜</b> 。
1841~43年	水野忠邦	天保の改革	農民の離村や出稼ぎを禁じ、株仲間を解散させた。幕府の権力強化を図り、江戸、大坂周辺の土地直轄化を計画するが失敗。	幕政の専制化に対する各方面からの反発により <b>失脚</b> 。 <b>幕府の権力衰退</b>

### 破綻寸前まで陥った幕府の財政

幕藩体制を支えたのは、人口のおよそ8割を占める農民だった。彼らは財政基盤である年貢の負担者として最重要視され、私生活にまで及ぶ綿密な政策が実行された。

徳川家の直轄領(幕領)は400万石余に達していたが、ここからあがる年貢とその他の雑税を加えての年収は、およそ76万両強になる。

しかし、夏と冬に支給される**旗本の俸給**30万両余を引くと、残りは46万両。現在の金額に換算すると1000億円程度である。これで幕府という中央政府を運営し、且つ徳川家の家計をまかなわなければならないのであった。

さらに、商品流通の飛躍によって物価が高騰し、**飢饉**や災害による**租税の減収**が追い討ちをかけ、幕府の財政は火の車だった。

### 再建にはいたらなかった幕府の三大改革

1716年、8代将軍に就任した徳川吉宗は、将軍親政による改革をスタートさせる(享保の改革)。吉宗は新田開発と倭約によって財政を立て直し、

### 江戸日本は世界有数の教育国

江戸時代には文書行政が徹底され、人びとには識字能力が求められたため、各地にたくさんのお寺が開設された。江戸内では一町内に2~3人の手習い師匠がいたとされ、全国には50万の寺子屋があったとする説もある。寺子屋では習字を基本に、文字の読み書きを覚えさせたが、やがてそろばんが加わった。女子の多い寺子屋では華道、茶道、裁縫を教えた。地理、歴史、道徳などの初歩教科書「往来物」は、7000種以上も出版され、幕末には、日本の識字率の高さは世界有数の域に達していた。

また法令の整備や訴訟の円滑化を図って、改革はそれなりの成果をあげた。

しかし、全国で一揆や打ちこわしが急増し、幕府の権威は揺らいでいた。田沼意次の跡を受けた老中松平定信は、幕府の権威強化と財政難解消のため、厳しい統制や倭約を強行する(寛政の改革)。しかし、各所からの反発が激しく、定信は失脚した。

その後、外国船の来航が相次ぎ、飢饉や大規模な一揆も頻発。1841年に老中となった水野忠邦は、幕府の再興を目ざして改革を断行(天保の改革)。しかし、さほどの成果はあげられず、江戸・大坂周辺の土地直轄化を図った上知令が出されると大名や旗本の不満が爆発。忠邦は失脚し、改革は頓挫した。改革の失敗は、幕府の権力の衰退を露呈する結果となった。

あら い はく せき  
**新井白石**  
[1657-1725]

江戸時代中期の儒学者、政治家。大老堀田正俊などに仕えたのちに牢人し、儒学者木下順庵(じゅんあん)に入門。推挙されて徳川綱豊(つなとよ)に仕え、綱豊が6代将軍家宣(いえのぶ)になると、幕政の中枢に参画した。「正徳の治」とよばれる理想主義的政策を推進するが、家宣死後は反発が強まり、吉宗が8代将軍に就任すると失脚した。



# 民衆による反体制運動の激化

重税や飢饉に苦しんだ民衆はしばしば一揆や打ちこわしを起こした。それらはしだいにエスカレートし、幕政を脅かすにいたった。

## 我慢の限界を超えた民衆による直接行動

江戸時代は「訴」の社会であるとしれば形容される。通常の訴願から直訴にいたるまで、「訴」の制度が広く認められていたからである。それは、問題の解決にあたって、中世社会のような武装した者同士による実力闘争ではない、つまり自力救済を是とする世界とは性格の異なる、新しい社会システムが形成されたことを意味する。

江戸時代における百姓たちの運動は、通常、代表越訴型一揆から大規模な惣百姓一揆へ展開したとされる。また、村役人層の村政運営を一般の百姓が追及する運動や、株仲間の流通独占に対する合法的な訴願運動なども発生した。それらは力量を高めた民衆にとらえることが可能である。これにより新しい社会システムは、その持続性を強めたと考えられている。

また大飢饉が起こると、たちまち米価をはじめとする物価が高騰して、江戸や大坂などの町民を直撃し、「打ちこわし」とよばれる暴動が発生した。1787年には江戸の米屋約1000軒が襲撃され、数日間わたって無政府状態になったという(天明の打ちこわし)。

## 飢饉に悩まされた江戸時代の農民

江戸時代の農民は、たびたび起こった飢饉に苦しめられた。なかでも最大といわれるのが天明の飢饉である。

1782年、東北地方を中心に冷害が起こった。翌年には、浅間山が大噴火し、溶岩流による死者は2万人余、降灰被害は10余国に及び、冷害と相まって大飢饉に発展した。麦も稲もほとんど結実しない完全な凶作で、被害は北へいくほどひどかった。弘前藩では1783年から84年にかけての餓死者が8万人を超え、田畑の3分の2が荒地地となったという。仙台藩は餓死者4万人、総高の9割の減収であったとの報告が残っている。

飢饉はその後もしばしば発生した。1833年からは、冷害による天保の飢饉が始まり、7年間におよぶ全国的な大凶作となった。



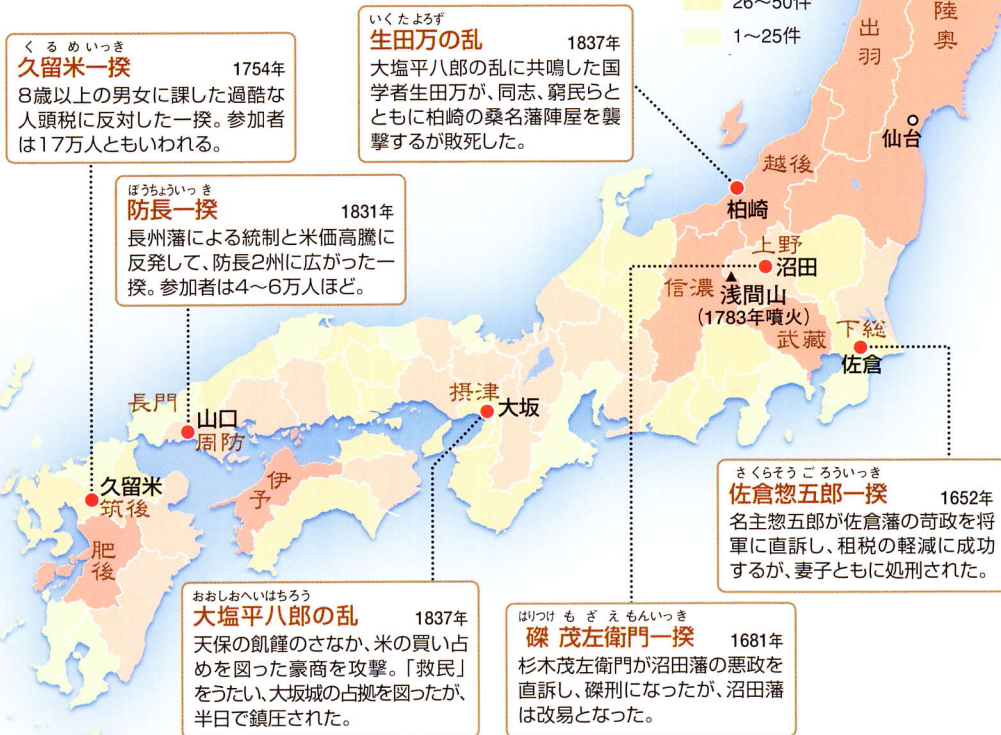
浅間山噴火の際、避難所となった鎌原(かんばら)観音堂(群馬県嬭恋村)。150段余あったとされる石段は泥流に飲み込まれ、15段が残る。

## 江戸時代の一揆の分布

江戸時代の一揆は、はじめは代表者による直訴が多かったが、しだいに集団による蜂起へと発展した。

百姓一揆の発生件数(1590~1877年)

- 101件~
- 51~100件
- 26~50件
- 1~25件



いくたよろず  
**生田万の乱** 1837年  
大塩平八郎の乱に共鳴した国学者生田万が、同志、窮民らとともに柏崎の桑名藩陣屋を襲撃するが敗死した。

くるめいっき  
**久留米一揆** 1754年  
8歳以上の男女に課した過酷な人頭税に反対した一揆。参加者は17万人ともいわれる。

ほうちゅういっき  
**防長一揆** 1831年  
長州藩による統制と米価高騰に反発して、防長2州に広がった一揆。参加者は4~6万人ほど。

さくらそうごろういっき  
**佐倉惣五郎一揆** 1652年  
名主惣五郎が佐倉藩の苛政を將軍に直訴し、租税の軽減に成功するが、妻子ともに処刑された。

いそざえもんいっき  
**礒左衛門一揆** 1681年  
杉木茂左衛門が沼田藩の悪政を直訴し、磔刑になったが、沼田藩は改易となった。

おしおへいはちろう  
**大塩平八郎の乱** 1837年  
天保の飢饉のさなか、米の買い占めを圖った豪商を攻撃。「救民」をうたい、大坂城の占拠を圖ったが、半日で鎮圧された。